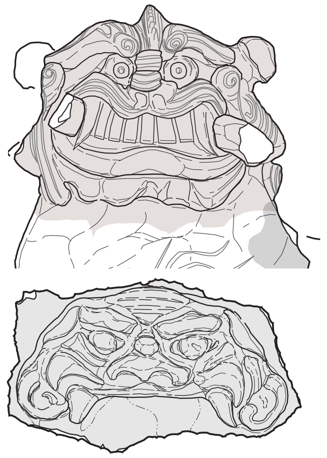


西二葉町遺跡（にしふたばちょういせき）地元説明会資料 2025

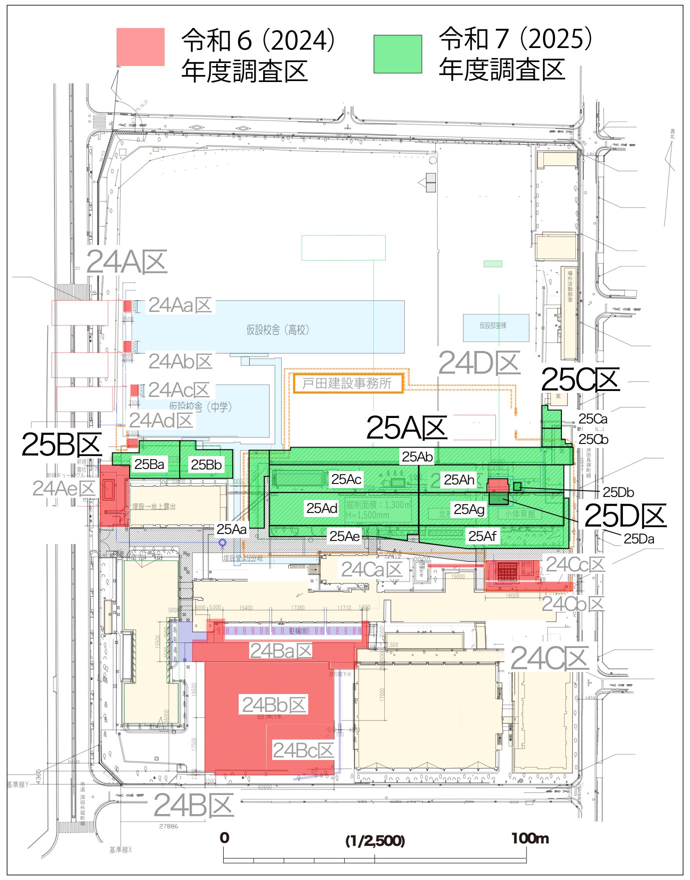
開催日時　令和7年9月13日（土）・14日（日）

調査主体　公益財団法人 愛知県教育・スポーツ振興財団
愛知県埋蔵文化財センター

調査支援　株式会社イビソク

調査の経緯

西二葉町遺跡の一角にある県立明和高等学校敷地内では、令和六年度から愛知県教育委員会財務施設課（ざいむしせつか）による校舎等建築工事に伴う事前調査として、愛知県県民文化局より委託を受けて、本発掘調査を行っています。今年度の本調査は、左図の緑色部分三六四六平方メートルを対象に、五月から十一月までの予定で実施しています。今回の調査・説明会開催には、明和高等学校および戸田建設株式会社の皆さまの格別なご配慮を頂いています。



令和７年度 西二葉町遺跡調査区位置図

西二葉町遺跡について

西二葉町遺跡は、名古屋市東区白壁に位置する遺跡で、その範囲は、県立明和高等学校敷地から北東に鎮座する七尾天神社（ななおてんじんしゃ）方面に広がっています。当地は特別史跡名古屋城跡および名古屋城三の丸遺跡の東に位置しています。現地表の標高は一五・五メートル、名古屋台地が北側に傾斜する台地の崖ぎわ付近に立地しています。

本遺跡は、「古墳時代聚落址（しゅうらくし）」とされたかつての二葉町遺跡に当たりますが、明和高等学校敷地全体には成瀬隼人正中屋敷（なるせはやとのしょうなかやしき）が所在していたことが以前から知られていました。令和五（二〇二三）年七月に、愛知県埋蔵文化財調査センターによる試掘調査の結果を受け、今回、本調査が実施されることとなりました。

これまでの本調査では古墳時代からの資料が見つかっていますが、**江戸時代と近代以降の遺構・遺物で注目すべき成果が出ています。本説明会でも、この二つの時代を中心に成果をお伝えします。**

〒498-0017　愛知県弥富市前ケ須町野方８０２の２４　電話　(0567)67-4161【管理課】4163【調査課】

地元説明会会場　遺構位置図

江戸時代　成瀬隼人正中屋敷の暮らし

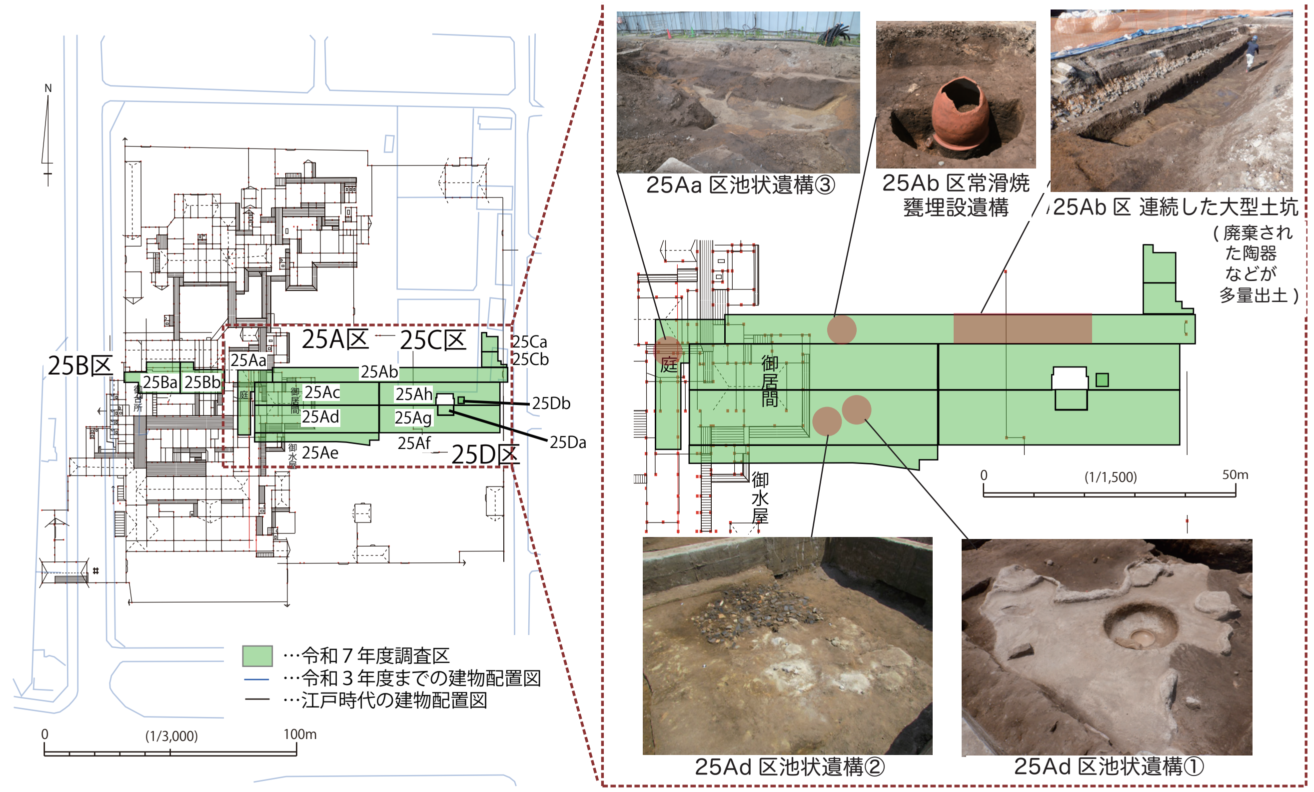
西二葉町遺跡は、江戸時代に成瀬隼人正中屋敷が存在していたとされます。令和七年度の発掘調査では江戸時代の遺構として主にふたつの調査成果を得ました。

ひとつは庭園の関連遺構です。25Ab区では、常滑焼の甕を上下逆に埋設された遺構が見つかりました。体部下半は崩れていますが、小さく孔があけられた底部も見つかり、水琴窟であったと考えられます。水琴窟は小さい孔に水を垂らして反響音を楽しむ庭園設備です。また、径約三～五メートルの池状遺構がこれまでに四基見つかりました。池は三和土で塗り固められており、同じ素材の導水施設も見つかっています。25Ad区の池①には底に瓦や土器片が敷き詰められ、池②には底部に鉢が埋め込まれています。

もうひとつは土器や生活残渣の廃棄場です。地形の窪地や、直径二～四メートルの大型土坑を利用しており、犬山焼や瀬戸焼、黄瀬戸などの多様な陶磁器や、サザエなどの貝類が出土しました。その他にも当時の高級品とされる焼塩壺も出土しています。焼塩壺は塩の蒸し焼きに用いたとされ、本調査では十七世紀中頃と十八世紀中頃に流通していたものが出土しています。

この他にも素掘りの井戸や、複数の礎石なども見つかりました。

江戸時代の成瀬家の屋敷図によれば、今回の調査地は空白地に位置しています。しかし、今回の調査成果からは、文献資料には残っていない部分でも庭園や陶器などの捨て場として、広大な空間を有効に利用していた様子を伺うことができています。（柳原麻子）



令和７年度西二葉町遺跡発掘調査で検出された江戸時代の主な遺構
屋敷図面は「成瀬隼人正中屋敷絵図１」（公益財団法人 犬山城白帝文庫所蔵）より

西二葉町遺跡地元説明会資料 2025

近現代の土地利用変遷について

西二葉町遺跡では、昨年度の調査で、旧制愛知県立第一中学校・名古屋帝国大学・愛知県立第一高等女学校・愛知県立明和高等学校の各校舎建物基礎跡など、愛知県下の中等・高等教育機関の草創期の様子を知る貴重な調査事例が見つかりました。今年度の調査では、さらに大きく二つの事柄が明らかとなりました。

一つ目は、戦後の復興住宅の跡が見つかったことです。25Cb区および25Ab区の東側で、小さなレンガによる基礎の跡が見つかっています。基礎は空襲による焼土層を整地して設けられており、愛知一中の学校基礎跡の上に重なる形となっていました。

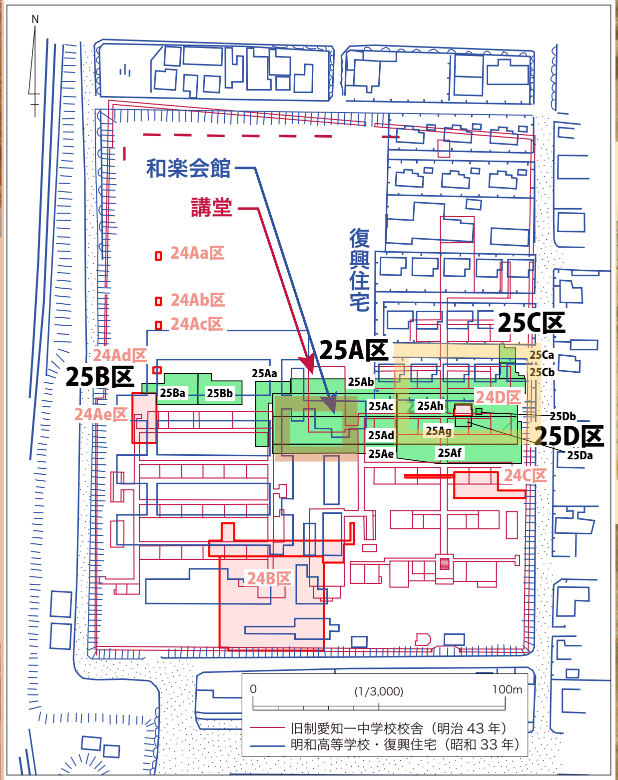
二つ目は、愛知一中と第一高等女学校の校舎基礎の関係です。特に、25Ab区の東側や25Ac区・Ad区では、第一高等女学校の講堂であった和楽会館とそれに関連する水周りの遺構（お手洗いか）が見つかっています。和楽会館周囲の基礎の配列を見ますと、愛知一中時代の講堂の配列を意識して配されている形跡があり、場所によっては重複しているところもありました。また、和楽会館に使われているレンガは、名古屋大空襲で壊された愛知一中のレンガを再利用していたことも判明しました。

復興住宅も、第一高等女学校も戦後すぐの造営のため、空襲焼土を整地してから建設されたと考えられます。実際の調査でも、上から【復興住宅・第一高等女学校基礎】→【空襲焼土整地層】→【愛知一中基礎】の関係を層位的に確認できており、時代的な前後関係を裏付ける証拠となっています。（川添和暁）

第一高等女学校水周り関連遺構（お手洗いか）【戦後・25Ab 区】

愛知一中講堂基礎跡と第一高等女学校和楽会館基礎跡【25Ad 区】

愛知一中講堂基礎跡と第一高等女学校和楽会館基礎跡【25Ad 区】



24・25 調査区 と
愛知一中および明和高等学校設立時学校校舎配置図

復興住宅基礎跡【戦後・25Cb 区】

空襲焼土層【戦時・25Ab 区】

愛知一中校舎基礎跡と復興住宅基礎の重複【戦後・25Ab 区】